

第53回全国建築板金業者兵庫大会

21世紀の飛躍 神戸から全国へ



愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市中区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

愛知県板金は 一七五名参加

全板大会は6月12日ポートピアホテルで前夜祭が、13日本大会が神戸国際展示場で開催された。

愛知県板金工業組合は12日・13日、一泊二日のバスツアーを組んで兵庫大会に117名と、当日会場及び支部単独バスツアー58名が参加した。

愛知県板金は昨年の横浜大会では式典当日を出発日として高速道路の渋滞に

あい大会終了後に到着という苦い経験をしている。今回は前日に兵庫県内で観光を行い、大会会場近くの塩田温泉で一泊し、式典にゆとりをもって参加できるように行程が組まれていた。

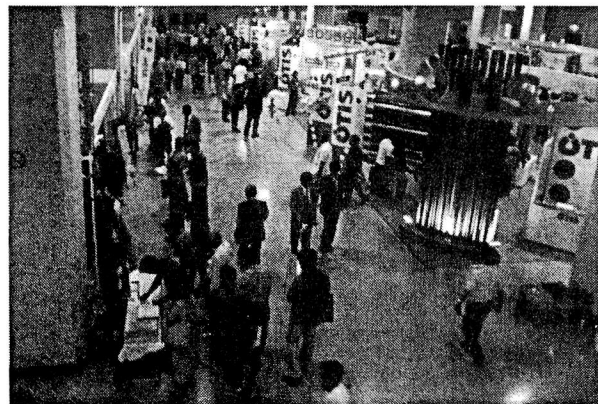
ツアーのコースは、バス4台で各支部の参加者の都合に合わせて出発



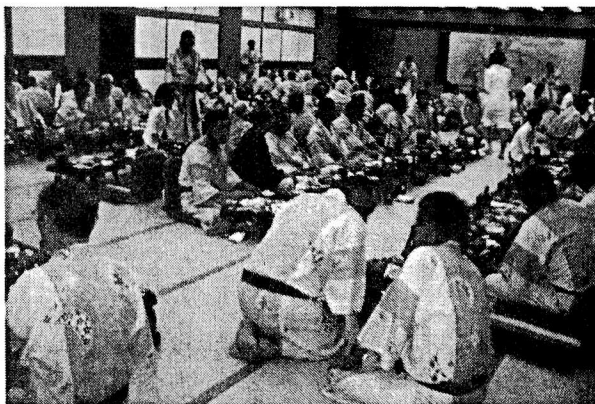
▲大会風景



▲功労章受賞者（敬称略）
左から石川光男、糟谷 満、三浦誠治、鈴木幹彦



▲展示会場風景



▲懇親会風景

地として、養老SAに、9時半頃集合した。
東条湖畔で昼食をとり姫路城見学や円教寺をへて、バスを降りる度に強い陽射しでかいた汗を塩田温泉の宿「夢乃井」で流した。
温泉といえども外の夜景は真暗で何一つない所だが「夢乃井」の宴会は大いに賑わった。
13日は宿を9時に出発して湊川神社参拝後、神戸ポートアイランドで早めの昼食をすませて12時半には大会会場に到着した。
神戸国際展示場2階で午後1時より式典が行われた。式典会場の1階では各メーカーの商品やパンフレットによる展示があり別の屋外展示場に

大会受賞者（敬称略）

* 功 労 章

鈴木 幹彦 三浦 誠治
糟谷 満 石川 光男

* 23回全国建築板金競技大会

建築技術の部

第2位 片山 匡裕
第3位 宇野 勝義

は大型機械や道具類の販売とデモンストレーションが行われていた。

時世を反映してか屋外展示は規模が縮小されているようにおもわれたが、暑い日の見学も休憩場も無く疲れるものだがエアコンの利いた屋内展示は欠かせないことだ。

愛板コースは午後3時に会場を後にしたが、それまで村上理事長は、大会役員として別行動であったが、帰路のバスごとに参加へのお礼と挨拶の中で愛知県板金が福利厚生制度活用組合表彰（全板国年基金）に第一位受賞したことを報告された。一宮 佐藤

村上理事長

愛知県中小企業団体中央会 副会長に就任



我ら愛知県板の村上章理事
長が4月27日の愛知県中小企
業団体中央会総会で副会長に

選任され就任された。

大変名誉である。お身体に
は十分気をつけて頑張ってい
ただきたい。

愛知県板の行政認可は愛知
県知事であるが報告事項や承
認は直接知事に提出するの
はなく、全て中小企業団体中
央会を経て提出することに組
合法で決められている。

全板連・日板協

青年部通常総会に参加して

六月二十四日(日)長野県長野
市の「ビッグハット」におい
て、第二十六回通常総会が行
われた。

本来なら県板青年部の役員
が参加するのだが、総会後の
別の件で同場所に行く用事が
あったので、通常総会に参加
してどのような通常総会が行
われるのか見てみようと思い
参加した。

開会の辞で始まり部長あい
さつ、参加人数・委任状の報
告、来賓あいさつ、議長・書
記の任命で始まった。議案の

このようなことから行政か
らの指導も中小企業団体中央
会からなされる。

その団体の副会長に就任さ
れたことは我々の組合にと
ても力強いことである。

小泉内閣になって国債の発
行が減り、地方行政の補助金
も少なくなり、当然私たちの
業界に出来る補助金なども目減
りしてくることになる。

その中で少しでも有利に事
業が展開出来れば板金組合と
しても助かるのではないであ
ろうか？

驚見

中に、役員改選に関する件が
あり、協議の結果、第八代新
部長に愛知県板、東三プロッ
クの河田雅彦氏(伸昌板金)
に決定した。愛知県板から部
長が任命されたのは、初めて
のことで、『すごい』の一言
につきると思う半面、全板連・
日板協主催の行事にはより多
くの人数を参加させなければ
ならないと思う。

十三年度の事業報告の中に
「あすなろ研究会」が、石川
県七尾市で開催され、競技大
会が、去年と同じ静岡県富士

式は、一人づつに全板連・
日板協理事長の勝又貞治氏が
賞状を渡し、全板連・日板協
青年部部長・野溝年成氏が、
記念の盾を渡された。

全ての行事が終了したのは、
午後二時三〇分であった。
その後、昼食をし帰路につい
た。

上位入賞者(関係分)

建築技術の部(NYAC)

- 一位 桑原勝則(群馬)
- 二位 片山匡裕(愛知)
- 三位 宇野勝義(愛知)
- 四位 伊藤秀二(三重)
- 五位 中辻安則(奈良)

岡崎 宇野

「リフォームに役立つ 研修会」開催

西三板金連合会主催

西三板金連合会は今年度の
事業の一つとして新商品に関
する研修会を企画していたが、
今回、大同鋼板(株)の協力でリ
フォーム関連の新商品の説明
とデモンストレーション施工
の研修会を開催した。

6月2日(日)9時45分より3
時30分まで岡崎技術工学院に
て開催し、西三板金連合会8
支部より82名、村上理事長を
はじめ他ブロックより12名の
参加者があった。

午前中は大同鋼板によりリ



▲リフォーム研修・実習風景



▲スレート葺き替え実習

フォーム商品の説明があり、
パンフレット、施工マニユア
ル、施工ビデオを使って次の
商品が紹介された。

- ・ER横葺きシリーズ
- ・エコダツハ
- ・ERソーラーシステム
- ・ERやすらぎ
- ・ERやまなみ新工法
- ・ERかわら

昼食後、金具メーカーであ
る(株)サカタ製作所の商品説明
があり、既存の折板を剥さず
に葺替できるタイトフレーム
(ふき葺Ⅱ型)、既存の小波ス
レート外壁に新しい下地を取
り付ける金具(ウォールタイ
トリスト)が紹介された。

その後、教室を出て駐車場
にてデモ施工に移った。施工
する屋根は太陽光発電システ
ム講習の時に作られたものを
使った。施工した屋根材は大
同鋼板の金属かわら(ERか
わら)、大波スレート用カバー
ルーフ(ERやまなみ)の無
塵工法、そして(株)田中屋の瓦
棒屋根の葺替ができる(スー
パールーフ)の3種類であっ
た。

ふたたび教室に入り、松下
電工(株)の有須田修氏を講師に
して「これからの板金業は生
き残りにどうすればよいか」
と題して約1時間の講演があ
り、今回の研修会は終了した。

高橋

「保証事業への協力について」

日頃から、県板事業にご協力いただいておりますこと誠に有り難うございます。

平成12年4月から住宅品質確保促進法（品確法）が施行されましたが、全板連の責任施工保証制度は、これに先駆け昭和59年から始められています。品確法の施行に伴い、お施主への保証の必要性は、益々増大してきます。

県板では、責任施工保証制

保証委員会報告

時 6月27日 3時開会
所 組合3階会議室
出席要員 10名（欠1名）

- 1、担当役員挨拶
齊藤副理事長
- 2、委嘱状交付
大友委員長挨拶

出席者自己紹介

4、議事

- (1)保証書発行状況について
- ①支部別保証看板店数②保証書発行及び工事規模一覧表
- ③全板型保証書発行実績一覧
- ④責任施工制度保証書発行及びクレーム事故件数・内容。

以上の資料により谷沢事務局長が説明。全国・愛知とも昨年から急増している事が指摘され、工事請負業者・工務

度を主要事業として取組み、確固たる制度としたいと考えられています。そのためには実績をさらに高める必要があります。建設業者の関心も高まっております。全板連では平成11年までの過去17年間の発行枚数累計3,740件に対し、平成12年1年間だけで2,097件と急激に増加しています。県板としましては、保証事業を当分の間は主要事業として

推進し、確固たる制度として確立したいと存じます。そのためには保証件数の実績をさらに上げる必要があります。平成11年までの合計70件に対して、皆様方のご協力により、昨年は保証書発行件数が152件とこれまでの最高となり、6月27日現在で累計が303件となっています。本年度は、さらに多くの保証書を発行致したく、県板の保証制度適用店の方々に最低1件は申請して頂くようお願い致します。

住宅品質確保促進法（品確法）の施行により、工事発注者、御施主様の認識が高まっております。保証書発行数が急増している最近の状況を知らせるべきである。各支部長あてに協力依頼をする。保証看板店で、世代交代などがあつたとき「自動継承でなく、講習会受講が必要であることをPRしてはどうか」との意見が出された。広報委員会、支部での取組みの呼び掛けを検討することとした。

(4)その他当面する諸課題について（意見交換など）

(2)の講習会は受講人数・講師など課題が多い。継続的に実施が重要である。今年度の委員会開催は、4回程度とする。

広報委員会報告

六月二十八日に、愛板組合三階会議室にて、新体制による第一回目の委員会が開催されました。

定刻より一時間早く、午後二時から始まり、新委員長（昭和支部の鷺見氏）から、一人一人に委嘱状が手渡され、自分も手渡されると『大変な事を引き受けてしまったな』と不安で一杯で、出来るのだからかと、心配の反面、今後の機関紙が自分の力でどう変わるか、ちょっと期待しています。

次に新旧の委員による今後の抱負が話され、さすが長年やって来られた委員の方々は、しっかりとした考えをもっておられて、私のような、まだ右も左も分からない若輩者はただ頑張りますの一言で終わってしまいました。

その後、討論会になり、色々な意見が飛び交い、白熱したバトルが繰り広げられ、ただ圧倒されるばかりで、話の内容にぜんぜんついていけないだけで、ただ呆然と会話を聞いているだけで、なんかあつという間に、時間だけが過ぎたような気がしました。

唯一分かった会話がパソコンのホームページの話で、委員長がホームページを印刷し

各種委員会開催日

- * 7月4日(水) 総務委員会
- * 7月11日(水) 技術研究委員会
- * 7月17日(水) 厨房・空調委員会
- * 7月24日(水) 厚生委員会
- * 7月25日(水) 経営対策委員会
- * 7月31日(水) 広報委員会

県板事務局

夏期休暇のお知らせ

日頃は、組合事業にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

県板事務局は、

8月11日(土)から

8月16日(木)まで

お休みさせていただきます。

豊田 田中

次回七月三十一日 火曜日

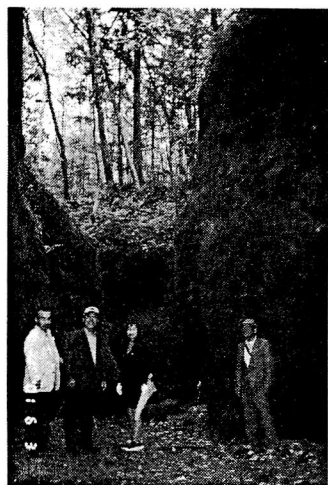
北海道紀行 (前編)

世間では梅雨入りしたばかりの六月三・五日の二泊三日で津島支部十四名の参加で支部旅行を行った。

早朝名古屋空港から約90分で千歳空港へ。名古屋は快晴だったが、北海道はいくの曇空。空港ロビーで現地ガイドと合流、中型バス一台貸し切りでゆったりと最初の目的地ノーザンホースパークへ。途中一匹の野生のキタキツネに遭遇し、あらためて北海道を体感した。ここは乗馬や馬車が楽しめる家族連れで楽しいところ。参加者は馬よりもアーチェリーやレーザシューティングで盛り上がった後、昼食のバーベキューをとり、皆早朝出発のせいか肉のおかわりをとった。



▲ 津島支部の組合のみなさん



▲ 苔の洞門

その後支笏湖へ。ここは日本で二番目に深い湖だそう、また悪天候等で足場が悪くなる

最深三六三M。ちなみに一位は秋田の田沢湖だそう。このあたりになると回りの団体客の言葉の違いに気がついた。最近では、台湾や韓国などの直行便ができ多くの観光客が訪れるそうだ。次に支笏湖南にある「苔の洞門」へ。ここは樽前山が噴火した時に流れ出た溶岩の割れ目が沢水等により浸食されてきた自然の回廊状の地形で、駐車場から約七五〇Mのゆるい登り坂を歩いて、四、五Mはある岩肌をびつしりと苔のはえた間を通り抜けてゆくのだが、まるで別世界のよう。ところどころ高そうなカメラを持った方々が、シャッターポイントをみつければ三脚を立てていた。一度訪れてみることをおすすめする。また禁煙に御協力。次に訪れたのが白老ポロトコタン。ここは有名な観光地なので御存知の方も多いだろう。アイヌ民族の博物館で、伝統工芸や踊りや唄を観ることができた。言葉も全く違い異国文化であった。

本日最後の宿泊地登別へ移動。我々がお世話になるのは「まほろば」という旅館で、ここは登別一の大浴場が自慢で、地下一階と二階に連なっており男女あわせて三三種類もの湯めぐりが楽しめる。露天風呂だけでも一般の旅館の大浴場ほどあった。露天風呂から眺める山肌の本々のあおさが気持ちよく感じられた。一日の旅の疲れを流した後宴会へ。四名のコンパニオンも加わり大いに盛り上がり無事一日目を終えた。

津島 猪飼

6月各支部の動き

東北支部	12日 役員会 ・秋研修旅行の件等	8名
中支部	2日 支部会	9名
昭和支部	8日 月例会 ・青年部発足の準備 ・高速道路別納カード	14名
熱田南支部	12・13日 全板大会直前コース参加	4名
中川港支部	21日 定例会	
尾張板金連合会	25日 月例会 ・理事会	21名 20名
津島支部	3・4・5日 親睦旅行 北海道	14名
小牧支部	12・13日 全板大会	9名
江南支部	15日 定例会	6名
春日井支部	8日 定例会 28日 役員会	12名
一宮支部	12・13日 全板大会参加	11名
西三板金連合会	2日 リフォームに役立つ研修会	94名
岡崎支部	21日 役員会 ・県中小企業共済の保険内容の変更 ・県板総代会の報告 ・全板大会 ・支部レクリエーション	
碧南支部	20日 青年部定例会 ・ソフトボール打合せ ・成人訓練の件 ・支部役員会 ・太子講議題について	19名 14名 14名
刈谷支部	4日 定例会	
豊田支部	12・13日 全板大会参加	19名
西尾支部	29日 簡易人間ドック 9日 第3回役員・班長会	14名 10名 17名
知立支部	8日 支部役員会 ・健康診断参加者募集	18名
知多支部	13日 全板大会参加	4名
東三支部	16日 青年部ボーリング大会・懇親会 5日 定例会	16名 27名
豊会との会合	8日 青年部定例会	16名
全板大会・親睦旅行	12・13日 全板大会・親睦旅行	10名 21名
三役会	25日 三役会	6名

編集後記

二〇六回の編集後記を書いてこられた齊藤前委員長には長い間、大変お疲れさまでした。

六月からは新年度の八委員会が新しい委員構成でスタートして、それぞれ委嘱状が手渡されている。

広報委員会では六月二十八日午後二時から県板三階会議室で編集委員会を開催した。再任委員に加え新しい委員、合わせて十名の出席があり、それぞれの委員に抱負を語ってもらったが、皆さん建設的な意見で積極的な記事を書くという意気込みであり力強く感じた。

委員長就任に当たり先日、初代委員長であった栗田政雄氏を敬訪問した。今年九十才になられる栗田氏は古い資料を出してこれら当時を熱く語られた、資料を持ち帰りよく読んでほしいと言われてお借りした。記録に残すことがいかに大切かが資料から良く分かる。今日、編集した「愛板」が記録として後世に残す資料である事にとっても責任を感じている。

六月二十八日(木) 曇
三六二号 編集会議
出席委員 十名
午後五時十五分終了
広報委員長 鷺見 収